

学 校 教 育 目 標	・物事に対する情熱をもち、長い時間、継続的に粘り強く努力することによって、物事を最後までやり遂げる思考態度を身に付ける。 ・計画、探究、行動、振り返りといった連続性のある学びの中であらゆる経験を自らの成長につなげるため、主体的に学び続ける思考態度を身に付ける。 ・よりよい世界を構築するために、年齢や性格、価値観などの多様性を受け入れ、地球にいる一人の人間として、貢献・活躍しようとする思考態度を身に付ける。
目 指 す 学 校 像	大宮国際中等教育学校は、よりよい世界を築くことに貢献する地球人の育成を目指しています。 そのため、学校生活のあらゆる機会を通して、未来の学力を備え国際的な視野を持つ生徒の育成を目指します。
重 点 目 標	1 生徒の学びを段階に応じた課題設定と、学びを深めるフィードバックの質の向上 2 安心安全な環境づくりの推進と、生徒理解のための徹底した組織対応 3 学校周辺地域から始まる積極的な外部との交流 4 I C T ツールの効果的に活用し、資源の削減や時間の節約など効率的な教育活動の実践 5 より効果的な研修の企画立案と、内外で得られた研修内容の共有の推進

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成（8割以上）
成	B	概ね達成（6割以上）
度	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1 学 び の 質 の 向 上 に 関 する 取 組	○学ぶ目的や長期的な視野を踏まえた課題設定を整理し、いかに効果的に動機づけを高めていくかが課題である。	学ぶ目的や長期的視野を持った課題設定を通じた動機づけの向上	・単元の開始時に学習目的と学習プロセスを確認し、動機付けと見通しを持たせることで学習効果を高める。 ・アンケート実施後、フォーカスグループによる更なる問いかけを行い、学習者の視点を深め、今後の参考とする。	・生徒が自身の探究活動と将来の目標とのつながりを言語化できる生徒の割合が80%以上である。				
	○指導や学びの改善につながる情報は多く存在しているが、十分に活用されておらず、活用するための仕組みも整っていないことが課題である。	生徒の学びを深めるフィードバックの活用と質の見直し	・指導や学びの改善につながる情報の整理と効果的な情報共有体制の構築を行う。 ・フィードバックの質と生徒の相互支援力の向上を図る。	・教科主任会を活用し、各教科のフィードバックに関する共有を10回以上行う。 ・フィードバックに関するアンケートに対する教師および生徒の肯定的な回答がそれぞれ80%以上である。				
2 子 ど も の 発 達 や 心 の サ ポ ー ト に 関 する 取 組	○交通事故、貴重品の紛失、生徒間のトラブルなど、学校安全に関わる諸課題への対応が必要である。	安全な学校の為の対策の徹底	・安全に関する授業や講習会を教員や生徒が様々な立場で実施する。 ・生徒の対人関係に問題が発生した際には、教員間・保護者・外部機関による支援体制を速やかに構築する。	・安全に関する指導（交通安全・防災・対人関係等）を10回以上開催する。 ・安全に関するアンケートに対する生徒の肯定的な回答が80%以上である。 ・貴重品紛失・通学中の自転車事故が昨年度よりも減少している。				
	○生徒は勉強や対人関係、個人的な悩みなど様々な課題を抱えているが、教員の業務過多により生徒理解のための時間を確保することが困難な状況がある。	教師が生徒理解を深めることによる、生徒の心身の発達の支援	・教員研修や、担任制の見直しも含めた生徒との関係の改善に向けた議論を行う。 ・生徒に対する個別面談・面接等を効率的に実施し、生徒理解を図る。 ・人格に関する授業（特活・人プロ・道徳など）の指導を改善・充実させる。	・全体研修を3回以上実施する。（校内・校外の専門家による内容を含む。） ・生徒支援に関するアンケートに対して、生徒の肯定的な回答が80%以上である。				
3 地 域 と と も に あ る 学 校 づ く り に 関 する 取 組	○生徒の個々の取組について生徒同士や教員、周辺地域住民への情報共有が不十分である。	生徒の活動の集約と継承	・生徒の探究課題、協力関係にある外部機関・関係者といったリソースをデータベースにまとめ、それらを効果的に活用できる仕組みづくりを行う。 ・他学年のプロジェクトとその際の関わりの見える化を推進する。 ・教員がボランティアや研修に参加することで外部連携の窓口を広げる。	・データベースの作成と試行運用、課題改善を繰り返し、令和8年度から本格実装を開始する。 ・他学年との交流事業を年3回以上実施する。 ・教員の80%以上がボランティアや研修に参加する。				
	○自らの興味関心に基づかないような、単なるインターネット検索による安易なテーマ設定による探究活動がある。学校と地域の関係性を高め、生徒が探究活動を行うときに学校周辺にある事柄に積極的に取り組むことが課題である。	生徒の活動の発信と本校にしかできないコミュニティづくり	・外部の教育力を更に活用するため、本校における外部主催ワークショップを増加させる。 ・HPやSNSを活用し、学校・生徒の取り組みについて理解と支援を得る。 ・周辺地域・自治会との交流の活性化を図る。	・CA・LDTの地域展開と施設提供を推進し、年20件以上の外部団体利用を促す。 ・生徒の80%以上が地域ボランティアに参加する。 ・自治会連携行事を年3回以上実施する。				
4 教 育 環 境 の 整 備 に 関 する 取 組	○ICT ツールが多様で複雑であり、また管理している情報についてもどのように取り扱うかその都度判断が必要であるため、時間的な損失が発生している。 ○PCの正しい扱い方やICTの効率的な使用に関する研修が必要である。生徒AI使用に関するガイドライン作成と周知徹底も必須である。	ICT環境の整備と学習活動への活用の整理	・Classiでグループを作らず、生徒との連絡手段はteamsのみで行う。 ・よりよい一本化されたLMSについての情報収集を行う。 ・校内の連絡体制の改善を行う。	・ICT活用に関する昨年度比のアンケートに対する教師および生徒の肯定的な回答がそれぞれ80%以上である。				
	○教員による日常の施設利用について利用希望が重なったり、また生徒による備品の破損や紛失が報告されない状況がある。	施設・事務手続き、運用環境の整備	・施設利用について、年間行事計画と時間割を突合し、学期単位で施設予約を入れたうえで随時変更と調整を行う。 ・学校施設・備品の取り扱いについて、担任を通じて適宜注意喚起を行う。	・教員の施設利用に関するアンケートに対する肯定的な回答が80%以上である。 ・備品の破損や紛失の件数が年10件以内である。				
5 教 職 員 の キ ャ リ ア 形 成 に 関 する 取 組	○業務が高度化、多様化、複雑化し、膨大な時間と労力が必要になっており、教職員が主体的に資質能力を高める機会と時間が確保できていないことが課題である。	教職員のパフォーマンスの最大化	・研修に出やすい業務システム整備、風土醸成を行い、教諭の視察や研修の機会を増やす。	・双方向的な個別最適型の校内研修会の実施回数が10回以上である。 ・校外研修会や視察に参加する回数が前年度より10件以上増加である。				
	○他のIB校や先進的な取り組みを行っている教育機関を教諭が視察し、学び合いや人脈形成の機会を得ることが必要とされている。	Teacher's agencyの醸成	・多様な専門性や階層のワーキンググループを創設し、その成果を教科指導や教材開発など各種教育活動全般に反映させることで、教職員の本校への参画意識を向上させる。	・教職員の満足度に関するアンケートに対する肯定的な回答が80%以上である。				